

## [005]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7343134>

---

出版情報：ポリモルフィア. 5, 2020-03-03. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：



## 巻頭言

内藤敏也

九州大学理事・事務局長・男女共同参画推進室長



平成28年3月に創刊号を発行したポリモルフィアは、今年度で第5号の発行になりました。ポリモルフィアは、ギリシャ語でダイバーシティ（多様性）を意味し、本学の活動紹介に加えて、男女共同参画全般を構成する諸分野（少子高齢化、ジェンダー、女子労働、ワークライフバランス等々）における様々な課題を広く読者と共有し、学外からも幅広く寄稿を受け付けることによって、学術的な研究発表の場にもなる総合的

な広報誌を目指しています。

今年度号では、令和元年9月20日に開催された第11回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡・2019年度全国ダイバーシティネットワーク組織九州・沖縄ブロックシンポジウム「女性の活躍推進に向けて～支援から戦略へ～」を特集として掲載しています。基調講演には、東京大学名誉教授の上野千鶴子氏をお招きし、「男女共同参画は学問を変えるか？」というタイトルでご講演いただきました。上野千鶴子氏については、今年の4月の東京大学入学式での祝辞が大きな反響を呼んだことは皆さんの記憶にも新しいと思いますが、今回のシンポジウムでも参加者を勇気づける力強いメッセージが発信されました。また、後半は九州・沖縄地区の11大学による理事、副学長によるパネルディスカッションが展開され、各大学の取組における現状と課題について情報を共有することができました。本シンポジウムは関係者を含め約500名以上の参加があり、質疑応答の時間では、会場からも活発な質問、意見が出されました。

九大フラッシュでは、男女共同参画推進室の上瀧恵里子教授から、九州大学が第1回輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン アシダ賞）を受賞したことが報告されています。本学がこのような荣誉ある賞を受賞するにあたり評価されたことは、女性枠設定による教員採用・養成システムを進めたこと、配偶者帯同雇用制度を導入したこと、論文業績分析を通じて女性研究者に対する評価への無意識のバイアスに関して一石を投じたことが挙げられます。

また、同様に上瀧教授からの報告にあります通り、従来から採択されていた国の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」事業に加え、今年度から新たに「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、「ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研究（SENTAN-Q）」を開始しました。すでに令和2年1月から、海外から招聘した研究者による選抜された

研究者への研修の実施が開始されており、今後6年間で女性研究者の積極的な上位職登用が期待されています。

さらに、九大フラッシュでは、第2回若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞の最優秀賞に選ばれた生体防御医学研究所、理学府のお二人の研究者に、研究内容をご紹介いただきました。この賞は昨年創設された「女性研究者活躍促進プロジェクト基金」により運営されていますが、この賞の創設に当たり本学の男女共同参画担当理事として多大な貢献をされ、基金にも多額の寄付をくださった伊藤早苗名誉教授に敬意を表し、今年度から「九州大学女性優秀研究者賞（伊藤早苗賞）」と呼称することになりました。※

今年度も多くの応募者の中から若手女性研究者部門、女子大学院生部門のそれぞれから3名を選出し、内1名を最優秀賞、2名を優秀賞としました。表彰式は令和元年10月19日のアカデミックフェスティバルにおいて執り行われ、久保総長より伊藤早苗賞とした経緯の説明をとともに、受賞者への賞の授与が行われ、受賞者による研究内容の発表が行われました。

本誌は、九州大学の男女共同参画推進室の活動記録にとどまらず、広く学内外から投稿と寄稿を受け付けており、今年度は学内外から6名の方に、研究ノート、活動報告、資料が寄稿されました。ポリモルフィア（多様性）の言葉どおり、様々な内容の記事を幅広く受け付けており、学内外の様々な方の情報発信の場となり、今後益々発展していくことを期待しています。

なお、伊藤早苗先生におかれては、昨年7月18日に他界されました。ここに謹んで伊藤先生のご冥福をお祈りするとともに、世界的な物理学者であった伊藤先生に続くような女性研究者が続々と輩出されるよう、本学としても一層尽力して参りたいと思います。

※伊藤先生の基金へのご貢献に伴い、本学男女共同参画推進室が入居する中央図書館2階の部屋を「伊藤ルーム」と呼称することも併せて決定いたしました。